

【1】次の文章は、司馬遼太郎の随筆集「この国のかたち」よりの抜粋です。

文章を読んで設問に答えなさい。

信長の思想は、同時代の人間とはちがっていた。

まず、他人の門地を問わなかったことである。その生涯の後期、野戦軍を五個軍団にわけていたが、五人の長のうち、侍（さむらい）らしい筋目をもっていたのは、最古参の柴田勝家と丹羽長秀だけだった。

この二人については、智謀より、野戦指揮官としての勇猛さを信長は買っていた。

当時の尾張兵は、三河兵や美濃兵より弱いとされていた。信長はこのことをよく知っていたから、勝家や長秀のような勇將が必要だったのである。勢力がやや大きくなると、滝川一益を抜擢し、一方を束ねさせた。一益は尾張人ではなく、いわゆる甲賀者（近江甲賀郡の地侍）だった。つまり忍びの出身だったから、あるいは諸国の事情にあかるかったり、偵察の能力はあったかもしれない。

しかし器量はあくまでも野戦型の武将だった。むろん、勝家や長秀と同様、才覚というような照り映えのするものは持っていなかった。ある時期までの信長には、それで十分だったのである。

四番目の秀吉については、よく知られている。

かれは信長にとっての第二段階である美濃進出の準備期から出頭人になった。

門地などはなく、いわば浮浪児のあがりて、信長によって泥の中から拾われ、実地のなかで信長の“教育”をうけた。信長好みの気迫はあったが、個人的な武芸があったわけではない。

信長は、結局、人間を道具として見ていた。道具である以上、鋭利なほうがよく、また使いみちが多様であるほどいい。その点、秀吉という道具には翼がついていた。

秀吉は早くから信長の本質を見ぬいていた。この徹底した唯物家に奉公するために我を捨て、道具としてのみ自分を仕立てた。ふつうこういう人間にろくなのはいないはずだが、秀吉は稀少な例外といえる。ただしかれは自分を韜晦しながら、いつの時期からか、秘かに自分の天下構想をもつようになった。

信長は、その死まで秀吉のそういう面に気づかなかったにちがいない。_____①_____と思いこんでいた。

設問 1：①に当てはまる文は何か。選択肢から記号で答えなさい。

a [a:道具が構想をもつはずがない b:秀吉が裏切るはずがない
c:秀吉が天下を取るはずがない]

設問 2：次の熟語の意味は何か。選択肢から記号で答えなさい。

(1)門地 c (b…出題者) [a:領地 b:家柄 c:出身地]

(2)韜晦 b (a…出題者) [a:自分の才能をかくすこと b:人知れず自己を鍛えること
c:過去を振り返り悔やむこと]

設問 3：「秀吉という道具には翼がついていた」とは、どう言う意味か。

使い道が多様であるということ。

設問 4：信長は人を何で評価したと思うか、漢字 2 字で答えなさい。

道具（能力…出題者）

■試験問題2/2

氏名 _____

【2】次の文章は、塩野七生氏の著作「ローマ人の物語 IV」より、カエサル(ジュリアス・シーザ)が書いた『ガリア戦記』について述べられた部分の抜粋です。文章を読んで設問に答えなさい。

… ともあれこの二千年間、カエサルの業績に関しては意見が分れないでもなかった史家たちだが、カエサルの文章力についてならば、讃嘆で全員が一致してきたのである。二千年後でさえ文庫本で版を重ねるといふ、物書きの夢まで実現した男でもあった。それで、評なるものも浜の真砂ほどあるため、とてもその一部でさえも紹介できない。ゆえに、古今から一人ずつを選んだ。キケロと小林秀雄ならば、代表選手としても不足はなかるうかと思う。

キケロ——紀元前五一年・記

これらの巻はすべて、裸体であり純粹であり、人間が身につける衣服にも似たレトリックを、完全に脱ぎ捨てたところに生まれる魅力にあふれている。

カエサルは、歴史を書こうとする者に史料を提供するつもりで書いたのかもしれないが、その恩恵に浴せるのは、諸々のことをくっつけて飾り立てた歴史を書く馬鹿者だけで、思慮深く賢明な人々には、書く意欲を失わせてしまうことになった。

小林秀雄——紀元後一九四二年・記 — 省略 —

— 以降再び作者 —

なぜか作家たちは、シェークスピアもブレヒトもアメリカの作家ソーントン・ワイルダーも、別の時期のカエサルは書いているが、ガリア戦役時代のカエサルは書いていない。キケロの言う「馬鹿者」になりたくなかったのか。それとも、プルタルコスしか読んでいなかったらしいシェークスピアは別として、『ガリア戦記』と『内乱記』は読んだこと明らかな現代の作家 ① もワイルダーも、②、明晰、洗練されたエレガンスによって貫かれているカエサルの文章を前にしては、③ とでも思ったのであろうか。

設問1: ①、②、③に当てはまる字句は何か。②と③は選択肢から記号で答えなさい。

① ブレヒト ② a [a:簡潔 b:完璧 c:秀麗 d:レトリック]

③ c [a:シェークスピアこそ書くべきである b:シェークスピアは書くべきでなかった
c:これ以上書く必要はない d:より詳細に書くべきである]

設問2: キケロの言う「馬鹿者」とは、どういう人のことを言うのか。

諸々のことをくっつけて飾り立てた歴史を書く人

設問3: カエサルの文章が優れていることを裏付ける事実は何か。

二千年後でさえ文庫本で版を重ねるといふ、物書きの夢まで実現したこと